

文学会賛助による特別講演

高橋 啓

『翻訳の現場から見た
現代フランス文学の可能性』

講演者略歴：

1953年生まれ。翻訳家。

主な訳書に、シムノン『仕立て屋の恋』（1992、早川文庫）、デナンクス『死は誰も忘れない』（1994、1995、草思社）、キニヤール『アルブキウス』『音楽への憎しみ』『さまよえる影』（1995、1997、2003年、青土社）、フリップ・クローデル『灰色の魂』（2004、みすず書房）、など。

2005年6月10日（金）

午後5時より

於

学習院大学文学部北2号館5階
フランス文学科大学院研究室（570）